

教育の原点とは何か

1930年以降、アメリカの教育心理学者や言語学者たちの間で、生まれたばかりのチンパンジーを、わが子と一緒に、わが子と全く同じように教育する実験が、盛んに行なわれてきた。その報告に

人間の幼児は、三歳ごろまでに千数百語の言葉を覚えて、これを使うようになるが、チンパンジーには、どんな方法で教えてみても、言葉を覚えてこれを使うことが出来るようにならない。

人間の幼児は、言葉を覚えてこれを使うようになるまでの間は、その知的行為において、決してチンパンジーより優れていると認められる行為が見られない(むしろ、チンパンジーの方が優れていると見られる)が、ひとたび言葉を覚え出し、これが使えるようになると、たちまちチンパンジーを追い越し、引き離してしまう……という。

百万年前においては、人間の生活も、チンパンジーの生活と大して違いはなかったように思われる。しかし、チンパンジーの生活が百万年前も現在もほとんど違いがないと考えられるのに対して、人間の生活には驚嘆すべき進歩があった。

その原因は、人間だけが“言葉”を持っていた、ということに拠る。人間は、一生の間に営々として蓄積した知恵を、言葉によって次の世代に伝えることが出来た。だから、世代が改まるごとに向上して行ったのである。

しかし、言葉を持たないチンパンジーはその一生の間に蓄積した貴重な体験も、次の世代に伝えることが出来ないで、その死と共に無に帰してしまうのである。世代の交替は、単なる重複に過ぎないのであるから、進歩するはずがない。

この「言葉によって、人間が一生を通じて獲得した知恵を次の世代に伝える」こと……もっと簡単に言えば、「親がその体験を子どもに残してやる」こと、これが“教育の原点”であり、この“教育”が、人類発展の原動力であるということがよくわかる。